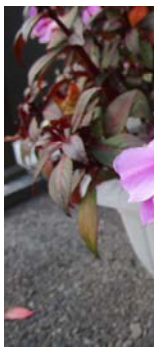
環境経営レポート 20

2022 年度版（2022.4.1～2023.3.31）発行：2023 年 9 月 1 日



株式会社 池松機工

〒869-1233　熊本県菊池郡大津町大津 2502-3

TEL：096-293-7666　FAX：096-293-8066

HP：https://ikematsukikou.jp

Mail：info@ikematsukikou.co.jp

目次

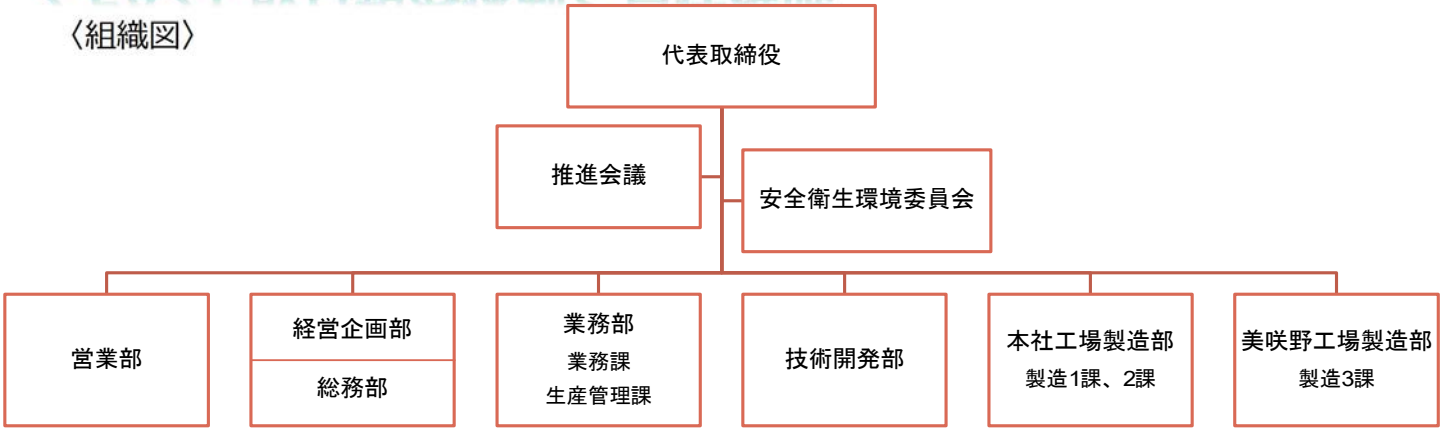
1.組織の概要 2
2.EA21 取り組み体制と責任権限 3
3.環境経営方針 4
4.池松機工のＳＤＧｓ 5
5.これまでの環境負荷状況 6
6.環境経営計画 7
7.環境経営目標 8
8.2022 年度の活動実績と評価 9
二酸化炭素排出量の削減 10
電力使用量 11
資源の有効活用 12
一般廃棄物排出量 12
廃油排出量 13
廃プラ排出量 13
木くず排出量 14
金属くずのリサイクル 14
水使用量削減 15
有機溶剤使用量 15
車輌エコ・エコドライブ 16
9.ＳＤＧｓの取り組み 17
社内推進 17
ボランティア 17
健康経営 18
地域貢献 18
10.安全衛生環境の取り組み 19
11.環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟などの有無 22
12.代表者による全体評価と見直し・指示 23

1.組織の概要

■事業者名	株式会社 池松機工
■代表者	代表取締役会長　池松 康博
	代表取締役社長　長井 敏哉
■本社工場	〒869-1233　熊本県菊池郡大津町大津 2502-3
■美咲野工場	〒869-1233　菊池郡大津町大津 1835-1
■TEL/FAX	096-293-7666(代)　/　096-293-8066
■HP	https://ikematsukikou.jp
■E-Mail	info@ikematsukikou.co.jp
■対象範囲(認証・登録範囲)	池松機工 本社・工場および美咲野工場
■対象期間	2022 年度(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)
■担当窓口	環境管理責任者 兼 衛生管理者　岩崎 真紀
■事業の概要	精密部品の加工・販売（アルミ・ステンレス等の金属加工）
カテゴリー	半導体・FPD 製造装置、真空装置用精密部品、5 軸加工品、大型 5 面加工品、チャンバー等
■従業員数	83 名(男性 72 名／女性 11 名)　※2023 年 4 月現在
■認定／認証	地域未来牽引企業　健康経営優良企業ブライト 500(経済産業省)
	熊本県ＳＤＧｓ登録企業　ヘルスター健康宣言(全国健康保険協会)
	よかボス企業
■地域貢献	大津町の祭り(4 月つつじ祭り・8 月地蔵祭り)への協賛(2022 年度はコロナで開催延期)　　大津町環境美化の日(年 2 回、6 月/10 月)

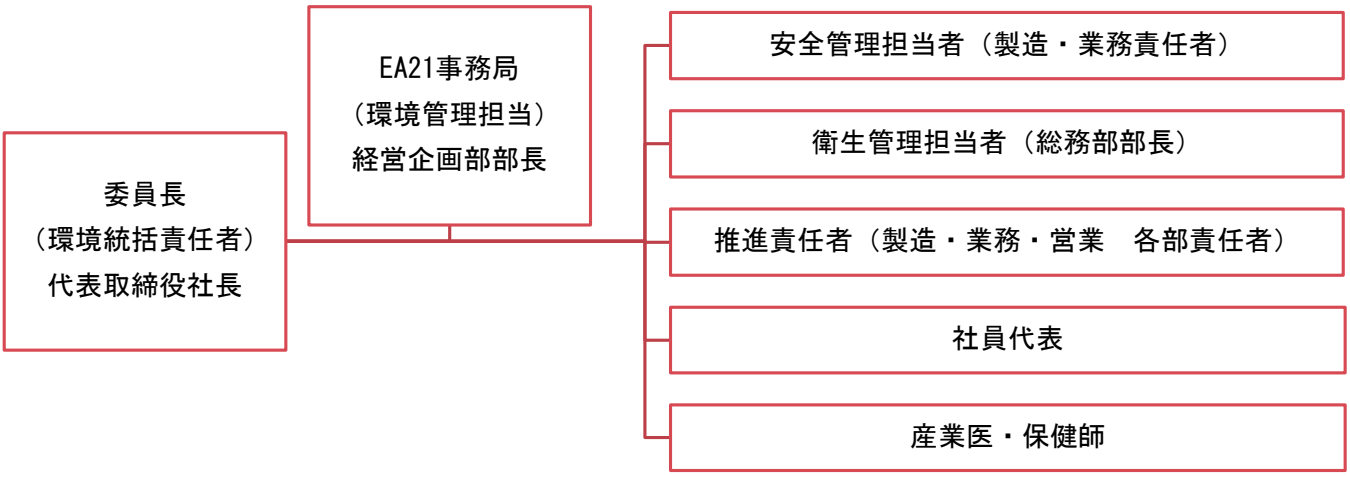
2.EA21 取り組み体制と責任権限

〈組織図〉



〈安全衛生環境委員 構成〉

安全衛生環境委員会：毎月第４木曜日開催
安全衛生環境パトロール：毎月第１火曜日実施
産業医巡視：１ヶ月おきに委員会後実施



役割	責任権限表
環境統括責任者	環境経営の最高責任者、環境方針の制定、環境目標承認、環境経営システムの評価、見直し、環境活動計画の承認
環境管理担当者	環境経営システムの構築・運用の責任者、実績等の代表者への報告、環境目標、環境活動及び環境活動計画書の確認、是正と予防処置管理
安全管理者	騒音、照度等作業環境測定と報告、設備の安全確認と異常時の対応、緊急事態の発生時の判断、５Ｓ推進
衛生管理者	衛生環境関連の提案、健康経営システムの構築・運用の責任者
事務局	環境管理責任者の代行と全般的な推進、環境マニュアルの立案、関連文書類の確認、ＳＤＳ作成･管理、環境関連法の確認、環境データの取りまとめ、環境活動レポート発行・ＥＡ実務全般
推進責任者	部門ごと環境活動の推進、活動の見直しと報告、内部・外部コミュニケーション対応、緊急事態の準備及び対応実務、環境教育に関する計画と実施（各部責任者）

3.環境経営方針

環　境　理　念

限りある大自然（地球）限りある生命を

次代に橋渡しする 私たちの本来の使命を果たす為に

このすばらしい自然環境を守り 夢と希望をもてる

豊かな社会を創造し貢献していきます。

環　境　経　営　方　針

1．省エネに取り組み 二酸化炭素排出量を削減します。

2．生産性の向上により廃棄物の削減を行います。

3．効率的な作業により水の使用量を削減します。

4．切削油や有機溶剤の適切な管理を行います。

5．良質で安全な製品を提供します。

6．環境関連法規等を遵守します。

私たち池松機工は、これら環境理念と環境経営方針を元に、環境経営の継続的な改善に努めて参ります。

制定:2003 年 9 月 1 日　改訂:2023 年 4 月 1 日

株式会社 池 松 機 工

代表取締役社長　長 井 敏 哉

4.池松機工のＳＤＧｓ

池松機工は、2021 年度の熊本県ＳＤＧｓ登録制度創設を機にＳＤＧｓの取り組みを開始しました。エコアクション２１で培った PDCA サイクルに基づき、環境経営と健康経営を軸にＳＤＧｓの取り組みを行っています。

池松機工は熊本県 SDGs 登録制度の認定を頂いています。

池松機工のＳＤＧｓ宣言

池松機工は、国連が定めた持続可能な開発目標である SDGs の趣旨に賛同します。

わたしたちは、持続可能でより良い社会の実現のために

1．高いモノづくり技術のもと、新たな挑戦(チャレンジ)を通して
　時代の変化に対応(チェンジ)する製品をご提供し続けます。
2．環境・社会に配慮した事業活動を通じて、地域社会との融和をはかり
　誰もが夢と希望をもてる持続可能な社会の実現に貢献します。
3．人材教育と健康経営を柱とし、環境整備に努め、社員一人ひとりが
　働きがいと高い倫理観を持って業務を行い、永続的に必要とされる企業を目指します。

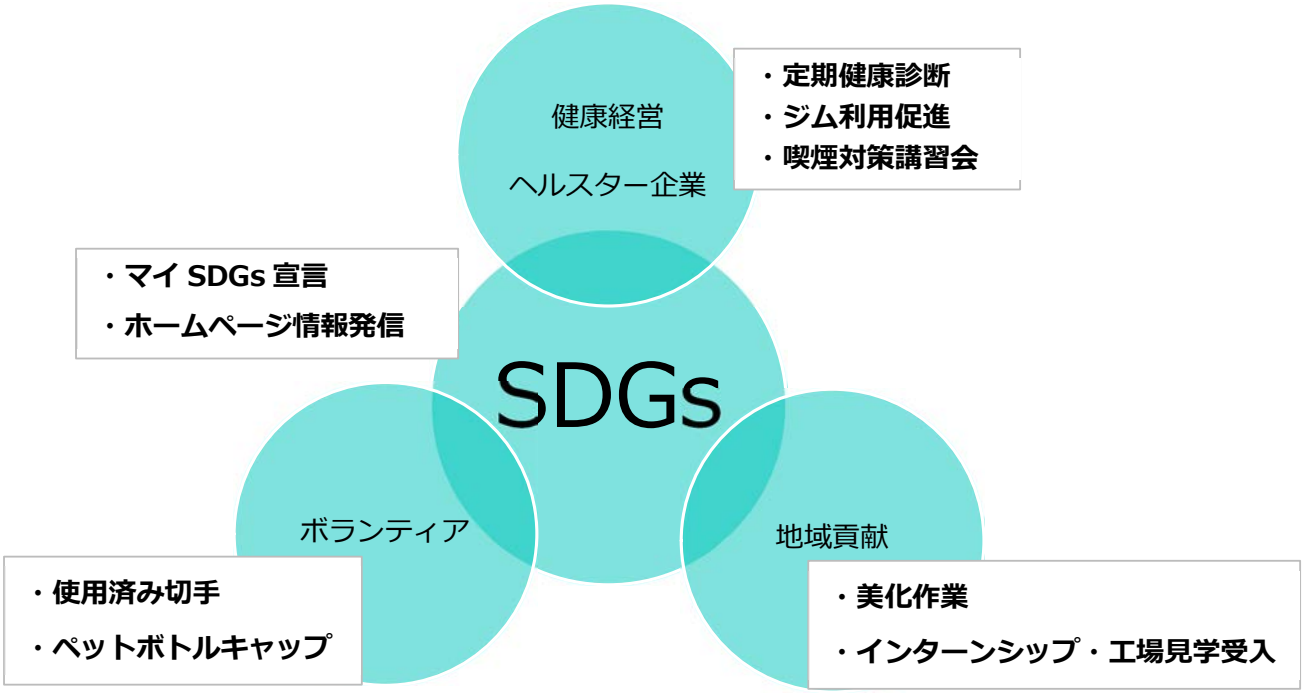
池松機工は環境・そして社会に配慮したモノづくりを行っていることを広く知ってもらうため、ＳＤＧｓと結びつけて捉え、持続可能な社会の実現に向け積極的に取り組んでいます。

5.これまでの環境負荷状況

		2018 年度 実績	2019 年度 実績	2020 年度 実績	2021 年度 基準年
二酸化炭素削減　　購入電力排出係数　丸紅新電力：0.502kg-CO2/kWh，九州電力：0.479kg-CO2/kWh　令和 2 年度実績					
二酸化炭素排出量	kg-CO^2	887,906	1,007,287	863,740	1,059,027
生産高原単位	*10	784	807	761	713
電力使用量	kWh	1,732,739	1,979,598	1,716,448	2,114,456
生産高原単位	*10^{-1}	153	159	151	142
廃棄物削減					
一般廃棄物排出量	kg	2,820	2,352	2,310	2,270
生産高原単位	*10^{-2}	249	188	204	153
廃油排出量	kg	14,400	43,200	35,100	26,730
生産高原単位	*10	127	346	309	180
廃プラ排出量	kg	3,820	5,030	3,365	3,795
生産高原単位	*10^2	337	403	296	256
木くず排出量	kg	18,440	11,400	12,560	11,070
生産高原単位	*10	163	91	111	75
水使用量削減					
水使用量	m3	1,311	1,441	1,498	1,431
生産高原単位	*10^2	116	115	132	96
有機溶剤使用量削減					
有機溶剤使用量	L	686	886	996	822
生産高原単位	*10^2	61	71	88	55

6.環境負荷状況をふまえた環境経営計画

項目		活動内容		担当/時期
CO_2削減	省エネ化 作業効率化 電力使用量削減	・省エネ型工作機械導入　・生産管理システム導入 ・無線式ピーク電力制御システム導入		製造 年間
資源の有効活用	廃棄物削減 リサイクル促進	分別と再利用 環境意識の強化	・切粉(金属くず)の分別　・切粉リサイクル ・端材利用　・木材パレット再利用	製造 年間
	廃油削減	切削液の腐敗防止	・オイルミキサー利用　・切削液の pH 管理	
	水使用量削減	ムダ水防止	・オイルミキサー利用　・流水時間の短縮 ・手元スイッチ式シャワー水栓　・節水シール	製造 業務 年間
化学物質管理	有機溶剤/ 切削油管理	購入量把握 ムダ防止	・年間購入量チェック　・小分けビン利用 ・こぼれ注意シール　・名称ラベル表示 ・SDS 掲示	製造 業務 年間
車輌エコ	環境負荷低減 燃費向上	車両保守 安全環境意識向上	・フォークリフト定期点検　・電動リフトの夜間充電 ・納品回数の削減　・交通安全のぼり設置	製造 業務 営業 年間
安全環境法令遵守	労働安全 衛生管理 健康改善 環境保護	法令遵守 地域環境保守	・安全衛生環境パトロール　・安全衛生環境委員会 ・新型コロナウイルス感染症対策　・騒音・照度測定 ・消防設備点検　・消防訓練　・BCP 対策	製造 業務 営業 総務 年間



7.環境経営目標

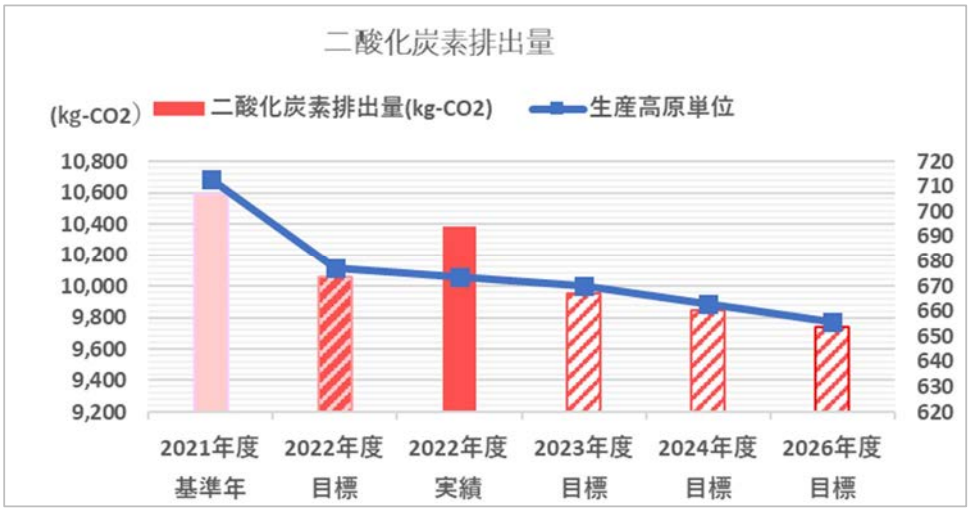
		2021 年度 基準年	2022 年度 目標	2023 年度 目標	2026 年度 目標
二酸化炭素削減　　購入電力排出係数　丸紅新電力：0.502kg-CO2/kWh，九州電力：0.479kg-CO2/kWh　令和 2 年度実績					
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	1,059,027	1,005,865	995,277	974,101
生産高原単位	*10	713	677	670	656
削減目標			-5%	-6%	-8%
電力使用量	kwh	2,114,456	2,008,733	1,982,178	1,897,830
生産高原単位	*10^{-1}	142	135	133	128
削減目標			-5%	-6%	-10%
廃棄物削減					
一般廃棄物排出量	kg	2,270	2,157	2,157	2,111
生産高原単位	*10^{-2}	153	145	145	142
削減目標			-5%	-5%	-7%
廃油排出量	kg	26,730	25,394	24,592	23,522
生産高原単位	*10	180	171	166	158
削減目標			-5%	-8%	-12%
廃プラ排出量	kg	3,795	3,605	3,567	3,491
生産高原単位	*10^2	256	243	240	235
削減目標			-5%	-6%	-8%
木くず排出量	kg	11,070	10,184	10,074	9,742
生産高原単位	*10	75	69	68	66
削減目標			-8%	-9%	-12%
水使用量削減					
水使用量	m3	1,431	1,359	1,345	1,288
生産高原単位	*10^2	96	92	91	87
削減目標			-5%	-6%	-10%
有機溶剤使用量					
有機溶剤使用量	L	822	756	748	723
生産高原単位	*10^2	55	51	50	49
削減目標			-8%	-9%	-12%

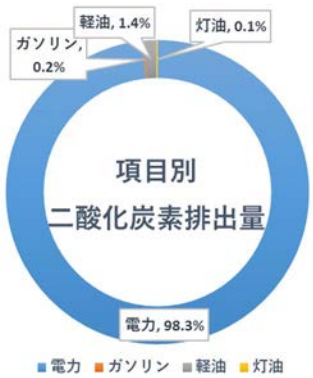
8.2022 年度の活動実績と評価

当社の各排出量は生産量により変動するため、評価には「各項目の排出量/生産高」の原単位を用います。

	単位	2021 年度	2022 年度				
		基準年	目標	実績	目標比	削減率	評価 対削減目標
二酸化炭素削減　購入電力排出係数　丸紅新電力：0.502kg-CO2/kWh，九州電力：0.479kg-CO2/kWh　令和 2 年度実績							
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	1,059,027	1,005,865	1,038,562	94%	6%削減	○
生産高原単位	*10	713	677	674			
削減目標			-5%				
電力使用量	kWh	2,114,456	2,008,733	2,077,633	95%	5%削減	○
生産高原単位	$*10^{-1}$	142	135	135			
削減目標			-5%				
廃棄物削減							
一般廃棄物排出量	kg	2,270	2,157	2,320	98%	2%削減	△
生産高原単位	$*10^{-2}$	153	145	150			
削減目標			-5%				
廃油排出量	kg	26,730	25,394	37,890	137%	37%増加	×
生産高原単位	*10	180	171	246			
削減目標			-5%				
廃プラ排出量	kg	3,795	3,605	3,260	83%	17%削減	○
生産高原単位	$*10^{2}$	256	243	211			
削減目標			-5%				
木くず排出量	kg	11,070	10,184	10,070	87%	13%削減	○
生産高原単位	*10	75	69	65			
削減目標			-8%				
水使用量削減							
水使用量	m3	1,431	1,359	1,546	104%	4%増加	△
生産高原単位	$*10^{2}$	96	92	100			
削減目標			-5%				
有機溶剤使用量削減							
有機溶剤使用量	L	822	756	424	50%	50%削減	○
生産高原単位	$*10^{2}$	55	51	27			
削減目標			-8%				

二酸化炭素排出量の削減





2022 年度の二酸化炭素排出量は 1,038,562kg-CO_2 で、前年 2021 年（基準年）の 1,059,027 kg-CO_2 と比較して 1.9%削減となりました。生産高原単位でも 6%削減することができ、目標の 5%削減を達成することができました。当社の二酸化炭素排出量の約 98%は電力使用量で(「項目別二酸化炭素排出量」より)、その内のほとんどは 46 台の機械設備が占めています。そこをいかに削減するかが重要になりますが、当社は省エネ仕様の工作機械を積極的に導入しており、省エネによる電力使用量の削減に加えて高生産性と高効率化も実現させています。

DX 推進

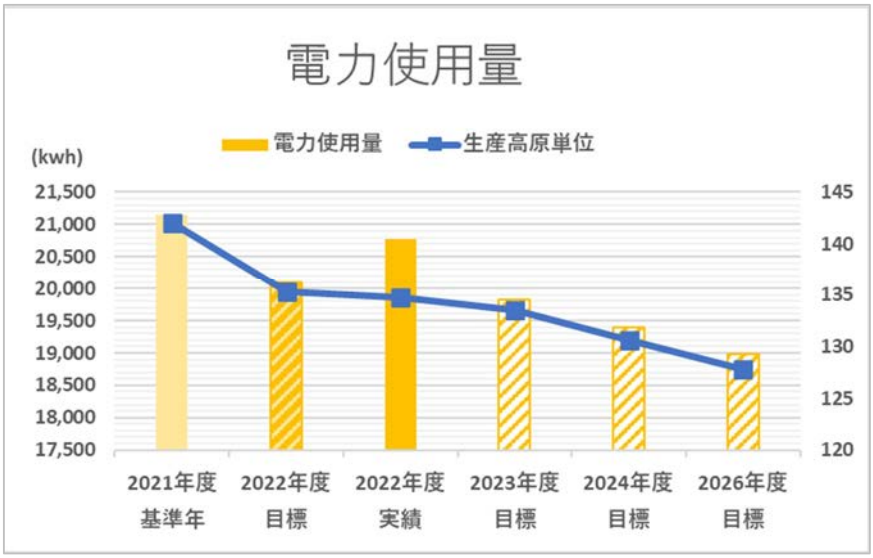
■見える化

2020 年の「見える化システム」導入により、工場機械設備の稼働状況のリアルタイム管理が可能になりました。現場では信号灯で加工完了や異常停止がわかるためダウンタイムロスの削減ができ、遠隔では稼働情報を自動集計して大型モニタに映し出すことで工程間のロスに気づくことができます。その結果、振り返りや改善を行うことで生産性向上に繋がりました。

■工作機械の入れ替え　　2022 年度には工作機械を 4 台導入しました。省電力インバータ制御やエコモニタ、パレットチェンジャー等を搭載しており、省エネ、高効率化に大きく寄与しています。

H.Plus-405

MB-56VA



電気使用量は前年 2021 年（基準年）の 2,114,456kwh から 1.7%削減し、2,077,633kwh でした。生産高原単位において 2022 年度目標の 5%削減に対して 5%削減し、目標を達成することができました。当社の電気使用量は機械設備が多くを占めており、生産量に左右されますが、省エネ型機械設備への入替や太陽光エネルギーの活用など、電力を抑えられるよう、取り組みを強化していきます。

再生可能エネルギー

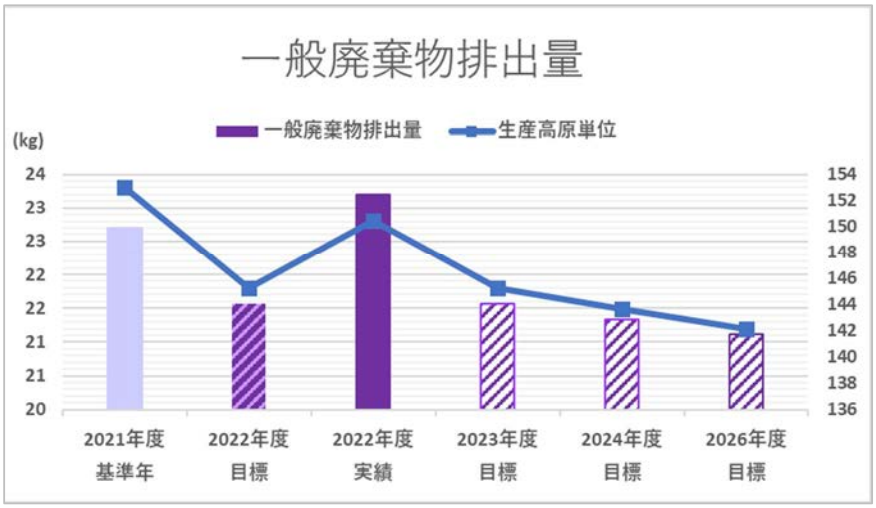
美咲野工場の屋根には太陽光パネルを設置しています。再生可能エネルギーの活用を促進し、二酸化炭素排出量削減を目的に 2019 年 12 月に導入しました。12 ヶ月分のデータが揃った 2020 年度～2022 年度において、美咲野工場の電気使用量（買電量）と太陽光発電量をグラフ化すると、以下のようになりました。

発電した電気は美咲野工場で消費しており、美咲野工場電気総使用量の約 10%を占めています。

割合にすると買電量に対してまだまだ少ないですが、10 万 kWh となると、47,900 kg-CO_2 の二酸化炭素排出量削減に繋がっています（購入電力排出係数　九州電力：0.479kg-CO_2/kWh　令和 2 年度実績）。

これまで LED 照明への交換や省エネ型の工作機械導入（エネルギー消費量の削減）、太陽光発電の導入（エネルギーの低炭素化）に取り組んできました。今後もカーボンニュートラルの実現に向けて、さらなる再生可能エネルギーへの転換を推進していきます。

一般廃棄物排出量



2023 年上半期の減産傾向により工場内の掃除に注力したことで清掃ゴミが増加し、一般廃棄物排出量は前年から 50kg の増加となりました。生産高の増加がありましたが、目標 5%削減に対し生産高原単位では 2%の削減にとどまり、目標未達成となりました。来年も引き続き古紙リサイクルや分別をしっかりと行い、廃棄物削減に取り組みます。

古紙リサイクル

古紙は専門業者に回収を依頼しています。回収後、専門業者にて製紙原料や RPF（固形燃料）にリサイクルされ、間接的に二酸化炭素排出量削減に貢献しています。名刺サイズ以上の紙は古紙に出すよう周知を徹底し、掲示を行っています。これらの取り組みの結果、古紙の回収量は年々増加しています。

掲示

ゴミ分類表

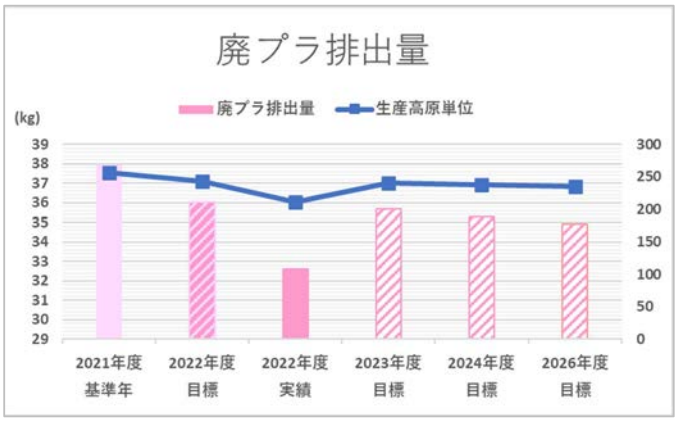
古紙と一般廃棄物（可燃ごみ）の分別に限らず、他にも分別を促進するために掲示を作成しています。
視覚的にわかりやすいよう、ゴミのアイコンを用いたゴミ分類表を作成し、一般廃棄物や廃プラスチックの回収場所に掲示しています。

廃油排出量

当社では水溶性の切削液を使用しています。水の腐敗による悪臭対策や機械増設による入れ替えに加え、昨年度の廃液排出量調整で今年度に一部を繰り越したため、目標の 5%削減に対し生産高原単位で 37%増加し、目標未達成となりました。
オイルミキサーやスキマーの利用、切削液の pH の管理を行い、廃液の削減に取り組みます。

■スキマーの利用
切削液は使い捨てではなく、何度か繰り返し使用しています。そのうちに汚れや潤滑油などの油が混入してしまい、悪臭の原因となるほか、切削液の本来の効果を失ってしまうことに繋がります。
これら浮遊物を除去するためにスキマーを設置しています。除去したあとの切削液は無駄なく工作機械に戻してなるべく長く使い、廃液削減に取り組んでいます。

廃プラ排出量

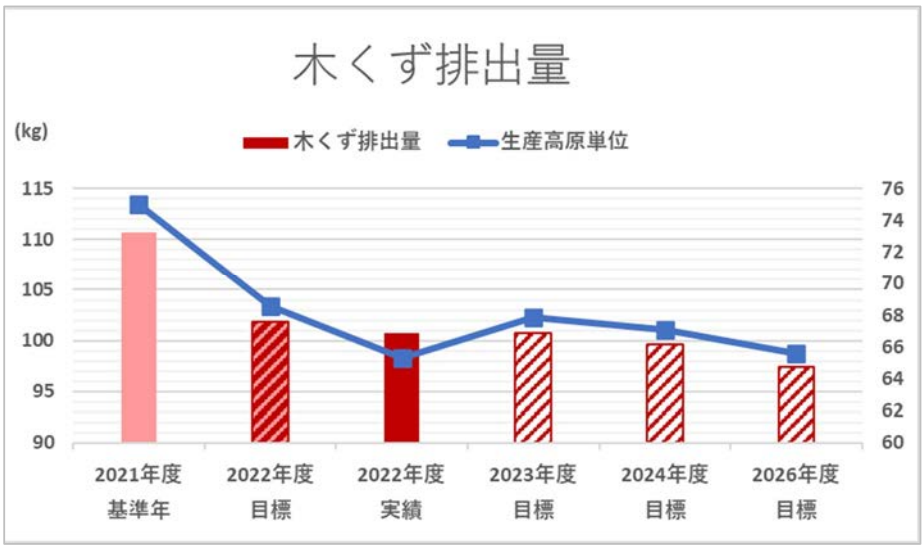


廃プラは、5%削減目標に対して生産高原単位で 17%削減と大幅に削減でき、目標達成となりました。2022 年度は 2021 年度に引き続き増産傾向でしたが、簡易包装にしたり、梱包材を再利用できるもの、廃棄するもの等に分別したりしたため、大幅な削減に繋がりました。

■廃プラ(梱包材)の分別
梱包にはミラーマットとエアーキャップを使用しており、廃プラ排出量のほとんどを占めています。廃プラ削減を促進するため、梱包材の有効活用のための意識向上や再利用できるものと処分するものの分別強化に取り組んでいます。

処分する廃プラを 1 つの袋に詰め、入り口を密封することで緩衝材にしています。

木くず排出量



生産高原単位では 13%と大幅に削減でき、8%削減目標を達成することができました。

排出量をみても前年 2021 年（基準年）11,070kg に対して 10,070kg と、10%の削減となりました。木くずの発生要因は材料を購入した際のパレットですが、木材として活用することで木くず排出量の削減に繋がりました。

■パレットの再利用

資材を購入するたびにパレットが溜まってしまっていましたが、不要なパレットを花壇等に作りかえて再利用しました。

金属くずのリサイクル

切削加工時に切粉という金属くずがでますが、これを円柱状に圧縮して有価リサイクルに出しています。その際に材料及び材質ごとに分別して、他ものと混合しないように掲示をして工夫しています。

有価リサイクル

圧縮

分別のための掲示

水使用量削減

水使用量は生産高原単位で 4%の増加となり、5%削減目標未達成となりました。製品の洗浄や切削液の希釈に使用するため生産状況に左右されますが、廃液削減と同様にオイルミキサーを活用する等して水使用量の削減に努めます。

■オイルミキサー利用

水性切削液を水で希釈する際に濃度を一定にすることで、水も切削液も無駄なく使用することができ、水使用量及び廃液排出量の削減に繋がっています。

有機溶剤使用量

2021 年度に続けて 2022 年度も大幅な排出量削減となりました。生産高原単位で 50%減となり、8%削減目標を達成することができました。

2021 年度に有機溶剤の特性を鑑み、使用する溶剤の見直しを行いました。次年度も削減に取り組みます。

池松機工美咲野工場の竣工に伴い、社用車を使用する機会が増えた 2018 年は走行距離が増加しています。一方で、新型コロナウイルスによる移動制限で 2020 年以降は減少しています。燃費の低下は主に停止と加速の繰り返しによるものですが、コロナの影響で高速道路を使った県外納品が減少し、一般道を走る近距離走行が増加したため、降下していると考えられます。
発進時はクリープ現象を利用してふんわりアクセルにしたり、減速時はできるだけ早めにアクセルオフしたり、少しの意識で燃費の向上が期待できます。運転時の心がけを共有し、車輌エコに努めます。

エコドライブ

■フォークリフト定期自主点検
蓄電池式のフォークリフトを導入しており、毎月自主点検を行っています。定期的に点検することで異常に早く気づくことができ、故障を回避することができます。また、エンジン式のフォークリフトに比べて蓄電池式は排出ガスが少なく、健康や環境にも配慮しています。

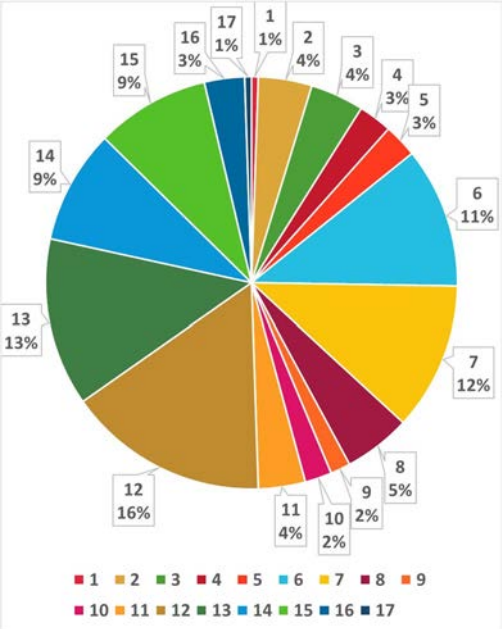
■ロードハンプ（減速帯）・制限速度表示
エコドライブとは燃費消費量や二酸化炭素排出量を減らし、地球温暖化防止につなげる運転技術や心がけのことです。環境負荷の低減や、交通事故の減少、燃費の向上に繋がります。急発進防止や事故防止のため、ロードハンプ（減速帯）と速度制限の注意を設置しています。

9.ＳＤＧｓの取り組み

社内推進

■マイ SDGs カードの作成

池松機工では、会社全体で SDGs に取り組むと同時に、各部署のみなさん一人ひとりに意識してほしいという目的で「マイ SDGs カード」を作成しています。「マイ SDGs 宣言」として日常生活や仕事の中で目標を立てています。



立ててもらった目標を 17 項目別に集計すると「6.安全な水とトイレを世界中に」「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「12.つくる責任使う責任」「13.気候変動に具体的な対策を」の項目が多く、関心の高さが伺えます。次年度は効果測定を実施し、PDCA サイクルに則って評価、行動していきます。

ボランティア

■使用済み切手の回収

2022 年 7 月、使用済み切手約 500g を日本教海外医療協会様に寄付しました。集めた切手は個人の切手収集家に換金をお願いし、その分がワーカー派遣や奨学金事業、協働プロジェクトに使われます。

回収箱 ↓

■ペットボトルキャップ寄付

2023 年 3 月、集めたペットボトルキャップを業者の方に回収していただきました。ペットボトルキャップ 860 個分を燃やすと 6300g の二酸化炭素を排出しますが、リサイクルするとポリオワクチン 1 人分になります。

少しずつしか集まらないけれど、一人ひとりが取り組むことで確実に積み重なります。

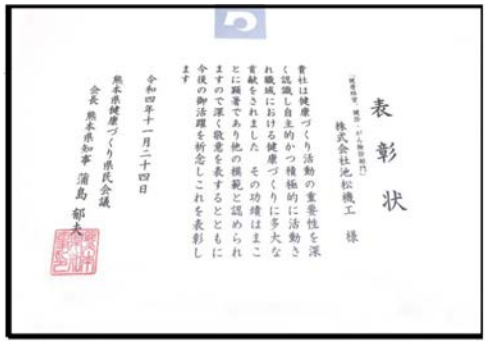
これらの活動はボランティアにも、環境負荷の低減にも繋がります。

池松機工は引き続き、これら使用済み切手とペットボトルキャップの収集に取り組みます。

健康経営

池松機工は健康経営優良法人ブライト500
の認定を頂いています。

池松機工では、従業員の健康を第一優先として、健康経営に力を入れています。令和４年度熊本県健康づくり県民会議の「健康経営、検診・がん検診部門」において表彰を受けました。


表彰状

貴社は健康づくり活動の重要性を深く認識し自主的かつ積極的に活動され職域における健康づくりに多大な貢献をされました。その功績はまことに顕著であり他の模範と認められますので深く敬意を表するとともに今後の御活躍を祈念しこれを表彰します

株式会社池松機工　様

令和四年十一月二十四日

熊本県健康づくり県民会議
会長　熊本県知事　蒲島　郁夫

■ジム利用促進

福利厚生として大津町トレーニングジムと法人契約しており、月６回まで無料で利用できます。定期的な運動は心身の健康に繋がり、生産性の向上に効果的です。多くの従業員に利用してもらおうと、掲示を行っています。

■毎朝のラジオ体操

地域貢献

■美化作業

年に２回予定されている、「大津町環境美化の日」に合わせて実施しています。社員全員でのラジオ体操のあと、１時間ほど取り組みます。ポイ捨てと思われる空き缶やペットボトル等は落ちていますが、以前に比べて少なくなっており、取り組みの成果が表れています。

■インターンシップ

インターンシップ（職業体験）では熊本県内で学ぶ学生を受け入れており、地元地域に貢献しています。モノづくりの面白さを体験してもらうことでキャリア育成に繋がる機会を提供できればと考えています。

■大津町企業との交流

フットサル部やソフトボール部があります。定期的に開催される大会に出場し、地域企業の方々と交流を深めています。

10.安全衛生環境の取り組み

■安全衛生環境パトロール・委員会

毎月、安全衛生環境パトロールと委員会を実施しています。各部署からメンバーを選出し、安全衛生環境の推進に努めています。パトロールと委員会で指摘があった事項についてはすぐに対応し改善します。また、産業医による巡視では、社員の労働衛生環境に関するフィードバックを行っています。

■消火器カバー

汚れ防止のため、消火器に透明なカバーを被せています。いざ使用するときに汚れを気にせず、サッと取り外せます。

また、年２回の業者による消防設備点検に加え、自主点検を行っています。

■新型コロナウイルス感染症

非接触型の検温器による体温測定を行い、体調管理を実施しています。

三密回避、マスク着用を徹底し、対策をしています。

（５類移行に伴い、対策は段階的に緩和し、2023 年６月よりマスク着用は個人の判断としています）

←避難・通報訓練の様子

→消火訓練の様子

■消防訓練　　９月１日の「防災の日」に合わせて、消防訓練を行っています。2022 年度は消防署職員のご指導の下、総合訓練（避難・通報・消火訓練）を実施しました。参加者を対象に事前デモを行い、各自が役割を理解した状態で訓練に臨みました。訓練後、消防署職員より講評をいただき、次年度はその内容を反映し、さらに充実した訓練にしていきます。

■各種掲示物

熱中症予防

SDS(安全データシート)

ハザードマップ

事務所棟、各工場、各作業場に掲示板を設置しています。常にタイムリーな掲示板となるよう、定期的に確認を行っています。

■機械直結のミストコレクター

金属加工時に使用する切削液が飛散することでオイルミストが発生します。機械に直結するミストコレクターを導入しており、空気中への飛散を防いでいます。

■交通安全上り旗

春と秋に交通安全週間を実施し、その間交通安全の旗たてを行います。本社前の道路は傾斜のある坂道でスピードが出やすく、大型トラックも通ります。旗立を行うことで安全運転の啓発や交通事故防止を目的としています。

11.次年度の環境経営目標

		2021 年度 基準年	2022 年度 実績	2023 年度 目標	2024 年度 目標	2026 年度 目標
二酸化炭素削減		購入電力排出係数　丸紅新電力：0.502kg-CO2/kWh，九州電力：0.479kg-CO2/kWh　令和 2 年度実績				
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	1,059,027	1,038,562	995,277	984,689	974,101
生産高原単位	*10	713	674	670	663	656
削減目標				-6%	-7%	-8%
電力使用量	kWh	2,114,456	2,077,633	1,982,178	1,940,004	1,897,830
生産高原単位	*10^{-1}	142	135	133	131	128
削減目標				-6%	-8%	-10%
廃棄物削減						
一般廃棄物排出量	kg	2,270	2,320	2,157	2,134	2,111
生産高原単位	*10^{-2}	153	150	145	144	142
削減目標				-5%	-6%	-7%
廃油排出量	kg	26,730	37,890	24,592	24,057	23,522
生産高原単位	*10	180	246	166	162	158
削減目標				-8%	-10%	-12%
廃プラ排出量	kg	3,795	3,260	3,567	3,529	3,491
生産高原単位	*10^2	256	211	240	238	235
削減目標				-6%	-7%	-8%
木くず排出量	kg	11,070	10,070	10,074	9,963	9,742
生産高原単位	*10	75	65	68	67	66
削減目標				-9%	-10%	-12%
水使用量削減						
水使用量	m3	1,431	1,546	1,345	1,317	1,288
生産高原単位	*10^2	96	100	91	89	87
削減目標				-6%	-8%	-10%
有機溶剤使用量削減						
有機溶剤使用量	L	822	424	748	740	723
生産高原単位	*10^2	55	27	50	50	49
削減目標				-9%	-10%	-12%

12.次年度の環境経営計画

毎月	安全衛生環境パトロール・委員会、昼礼、ホームページ情報発信、いけまつ新聞（社内報）作成
4 月	フォークリフト点検講習、新人研修、スポーツジム利用促進、節電対策、工作機械導入
5 月	交通安全週間のぼり設置、マニュフェスト報告
6 月	美化作業、熱中症対策、浄化槽清掃、害虫対策
7 月	ハザードマップ掲示、全国安全週間、消防設備点検
8 月	消火器自主点検、救急箱チェック、廃棄物分別強化
9 月	美化作業、SDS チェック、交通安全週間のぼり設置
10 月	消防訓練、インフル予防接種、大津町スポレク大会、健康づくりセミナー、ISO 一次審査、全国労働安全週間
11 月	ISO 二次審査
12 月	BCP 備蓄品棚卸し・配布
1 月	EA 審査、消火器自主点検
2 月	先端技術講習会
3 月	健康診断、BCP 備蓄品補充
その他	インターンシップ受け入れ、工場見学受け入れ

13.環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟などの有無

区分	適用法・条例	対象	遵守状況	評価
水質	浄化槽法	浄化槽	年 2 回点検清掃実施	○
音・振動	騒音振動規制法	空気圧縮機・送風機	定期点検	○
大気	フロン排出抑制法	業務用大型エアコン	定期点検	○
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃プラ・廃油・木くず	100%リサイクル	○
	水銀に関する水俣条約	蛍光灯や電池等	専門業者に依頼	○
	プラスチック資源循環法	プラスチック	分別・再利用	○
リサイクル	家電リサイクル法	冷蔵庫・洗濯機・テレビ	専門業者に依頼	○
	小型家電リサイクル法	パソコン・周辺機器等	専門業者に依頼	○
有機溶剤	労働安全衛生法（名称表示・通知）	洗浄剤	SDS 表示	○
化学物質	RoHS2 指令、REACH 規制（不使用）	製品素材	不使用確認	○
消防	消防法施行令	消防・防災設備機器	専門業者に依頼	○

池松機工は環境関連法規を遵守し、環境理念及び環境経営方針に沿って生産活動や環境保全活動を進めています。過去 3 年間を通して、環境関連法規などへの違反、訴訟及び関係機関や近隣周辺住民からの指摘事項や苦情は 1 件もありませんでした。

14.代表者による全体評価と見直し・指示

環境方針	環境目標	環境活動計画	経営システム体制
変更の必要性はなし	適正な目標設定値であるが生産量の増減による目標値の変更の必要性はある	計画に基づいた活動内容も明確であり大きな見直しの必要性はない	各責任者が体制の構築に前向きに取り組んだため体制の変更は不要

全体評価

今年度は年度初めから高い水準で生産量が増え、設備の稼働率も高い状態で進める事が出来ました。特に計画生産品の量産物については稼働率 90%以上を可能にし、推移してきました。これも全従業員が安全と効率を最優先に考え業務を遂行してきた結果だと思います。高難度な製品の加工にも挑戦し新たな顧客との取引も開始出来たのも大きな成果です。高能率な加工や高難度な加工などを実現できた背景には技術開発課を中心としたハイレベルな技術の習得があったものと確信しています。チャレンジ＆チェンジの精神の基、日々努力を続けて欲しいと思います。

尚、職場環境面については５S活動が年々強化され、建屋は古くなりつつも工場内の環境は年々良好な状態に進化しており良い状況が継続しています。また、客先への提案により納品時の簡易梱包が実現した事例も増え、廃プラの削減に大いに貢献出来たと思います。提案型企業として認められつつある中、更なる改善提案の発案を継続し廃棄物の削減はもとよりリサイクルによる二酸化炭素排出量削減に努めて欲しいと思います。

一方、気になる点もゼロではありません。切削液の廃液の量が増加はしていないものの減少もしていないのも事実です。生産量に比例し使用量で変化する廃棄量ではありますが、新たな削減に向けた取り組みを考えるべきかもしれません。

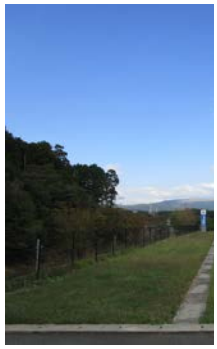
2022 年度は産学官連携した取り組みを積極的に行い、インターンシップで受け入れた学生は累計で 11 名を数えました。2023 年度春の新卒採用も 5 名確保できた事は、インターンシップの対応や学生向けの講習会開催など従業員の良好な対応の評価の結果だと言えます。引き続きより良い職場環境づくりに努めて欲しいと思います。

まとめになりますが、繁忙期にも関わらずこの環境活動が継続して実施された事は会社にとっても大きな発展であり、大きな収益にも繋がりました。今後も社員一人一人が思いやりの気持ちを忘れず、目標に向かい努力し、更なる社会貢献を期待しています。

2023 年 9 月 1 日
株式会社　池 松 機 工
代表取締役社長　長 井　敏 哉

IKEMATSUKIKOU

SDGs Sustainable Development Goals



Accurate Technology & Flexibility

IKEMATSU KIKOU